

ダイバーシティ・ インクルージョン推進センター

Newsletter

Vol.10

第11回 講演会「アンコンシャス・バイアスを超えて」を開催

2023年5月22日(月)に、創価大学大教室棟教室にて、学校法人昭和女子大学

総長・坂東真理子先生をお迎えし、講演会を開催しました。坂東先生は、長年、**昭和女子大学総長・坂東真理子先生**男女共同参画の女性政策に携わる公務を務められ、またベストセラー『女性の品格』など多数の著書を出版されています。女性活躍の先駆者として第一線で働きながら、2人のお子さんを育て上げた経験を持つ坂東先生にご講演を頂き、学生・教職員・一般の方など約200名が参加しました。



ご講演では、「男女の中にある『無意識の偏見』アンコンシャス・バイアス」の存在が、女性が日本の社会で活躍できない非常に大きな理由の一つではないかとお話しされました。日本の状況は、諸外国に比べると女性の活躍について課題が残るものの、雇用や育児、介護に関する法整備も進み、現在は保育所定員が280万人と非常に整ってきた。それにも関わらず、なぜか女性たちが社会で活躍できない点について言及されました。

アンコンシャス・バイアスは、「自分では全くその気がない、普通のことを言っているつもりで、当たり前の相手の特徴を言っただけだと思っているが、実はそれが『バイアス = 偏見』で、自分では気がつかない人が多い」「しかし、一番厄介なのが、男性のアンコンシャス・バイアスで、世間の常識が女性に跳ね返ってくることで、女性

自身も『私は女性だからこうなんだ』というアンコンシャス・バイアスを持っている」と指摘されました。

また、女性が自分自身を縛っているアンコンシャス・バイアスから解放され、自分の可能性について、この程度しかできないんだと思い込んでいる部分を転換し、小さな成功体験をコツコツ積み重ねて自分はできるんだぞと自己改革していくことが大事であると指摘。職場を選ぶ際も、女性は仕事と育児のワークライフバランスが大事であり、そのために働きやすい職場を選ぶのも良いが、「女性が生き生きと仕事をし、また責任ある仕事を与え、チャレンジする機会と鍛え、昇進の機会もある」という視点が大事だと述べられました。

女性のみならず若い男女の学生へのエールとして、自分の可能性を自分自身のアンコンシャス・バイアスで狭めることをせず、また、長い人生の中でキャリアは人生設計の要、女性は選択肢が多いからこそ十分に考えてほしいと言葉を寄せられました。

参加者からは「アンコンシャス・バイアスという無意識の偏見に女性が気づく必要があり、思い込みからの解放が重要だということを知りました。これからは自分なんてと思わずまず挑戦してみようと思いました」などの感想が寄せられました。

参加者からは「アンコンシャス・バイアスという無意識の偏見に女性が気づく必要があり、思い込みからの解放が重要だということを知りました。これからは自分なんてと思わずまず挑戦してみようと思いました」などの感想が寄せられました。



2023 年度会議実施報告

男女共同参画推進センターよりダイバーシティ・インクルージョン(D・I)推進センターへの名称変更(2022年4月)以来、D・Iに視野を広げた2023年度。多様性に富むキャンパスの構築に向けて、3つの観点でWG(①D・Iに関する授業開講 ②SOGI ③(女性)職員改革)を設置、また、D・I推進委員会とセンター員会議を事業推進の両輪として多角的に取組を展開。キャンパスのD・I環境の実態を正しく認識し、先進事例に眼を向け、多様性に富むキャンパス実現へ、検討と挑戦の一年を時系列で報告する。

● D・I 推進委員会

第1回 2023.7.4 開催

- ・D・I推進センター員人事について
- ・女性活躍推進法に関する制度改正(女性の活躍に関する「情報公表」の変更)のお知らせ
- ・性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律の制定、施行について
- ・海外大学における性の多様性への取り組み事例
- ・D・I推進センター新部会と具体的活動体制(案)について

第2回 2023.11.21 開催

- ・2024年度D・I推進センター主催セミナー企画(案)について
- ・女子大学院生フェロウシップ2024年度実施・運用に向けてのスケジュール(案)について
- ・D・Iに関する授業開講に向けて学生授業アンケート実施結果について
- ・2023年度秋学期各種事業実施計画について

第3回 2024.3.15 開催

● D・I 推進センター員会議 全9回 メール審議3回

第1回 2023.5.9 開催

- ・2023年4月1日付 D・I推進センター員人事、部会構成について
- ・D・I推進センター主催 春学期講演会について

第2回 2023.6.6 開催

- ・2023年6月1日付 D・I推進センター員人事について
- ・D・I推進センターの今後のWG(①D・Iに関する授業開講 ②SOGI ③(女性)職員改革)について
- ・次世代育成部会 オープンカフェ、女性教員サロン、大学院生サロン、ロールモデル集の作成について
- ・調査・広報・啓発部会 秋学期セミナー実施大綱(案)について

第3回 2023.7.18 開催

- ・2024年度FD・SD委員会との合同セミナー企画(案)について
- ・2023.7.4開催 D・I推進委員会報告
- ・各部会報告、各WG報告
- ・公益財団法人大学セミナーハウス主催第44回大学職員セミナーのご案内

第4回 2023.9.12 開催

- ・「女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の情報公開内容」について
- ・女子大学院生フェロウシップ制度 2024年度募集要項について
- ・各部会報告、各WG報告

第5回 2023.10.10 開催

- ・WLB支援部会 ランチミーティング、学長と外国人教員との懇談会について
- ・調査・広報・啓発部会 秋学期セミナー実施大綱について
- ・学内保育所管理運営委員会報告

第6回 2023.11.14 開催

- ・WLB支援部会 ランチミーティング、学長と外国人教員との懇談会について
- ・調査・広報・啓発部会 2024年度講演会(D・I推進センター・SDGs推進センター共催セミナー企画)について

第7回 2023.12.5 開催

- ・WLB支援部会
学長と外国人教員との懇談会について
- ・調査・広報・啓発部会
2024年度講演会(D・I推進センター・SDGs推進センター共催セミナー)企画(案)について
2023年度ニューズレター編集計画について
HP掲載記事「2024年度創価大学女子大学院生フェロウシップ募集」について
- ・D・I授業開設WG
D・Iに関する授業のシラバス(案)について
- ・2023年度学長ビジョン 第2回評価報告について
- ・「2023年度全国ダイバーシティネットワーク総括シンポジウム」参加報告

第8回 2024.1.18 開催

- ・2024年度 D・I推進センター事業計画(案)について

第9回 2024.3.11 開催

メール審議1 2023.7.25

- ・2024年度FD・SD研修企画(案)について

メール審議2 2023.8.6

- ・「創価大学におけるファーストジェネレーション支援」プロジェクト講演会運営に関する協力依頼について

メール審議3 2023.12.17

- ・2023年度ニューズレター編集計画(案)について

● 部会

調査・広報・啓発部会

- ・2023.7.11 メール審議 秋学期セミナーについて
- ・2023.7.24 オンライン 2024年度春学期FD・SD研修企画案について
- ・2023.9.25 オンライン 秋学期セミナーについて
- ・2023.11.13 オンライン //
- ・2023.11.30 オンライン //
- ・2023.12.11 オンライン 2023年度ニューズレター編集計画案について1
- ・2023.12.17 メール審議 2023年度ニューズレター編集計画案について2

WLB支援部会

- ・2023.10.10 オンライン
- ・2023.11.13 オンライン ランチミーティングについて
- ・2023.11.27 オンライン 学長懇談について
- ・2024.1.15 オンライン 学長と外国人教員との懇談について

次世代育成部会

- ・2023.6.1 各種イベント実施計画案について(オープンカフェ、女性教員サロン、大学院生サロン、ロールモデル集)

● WG

D・Iに関する授業開設WG

- ・第1回 2023.6.21
- ・第2回 2023.7.19
- ・第3回 2023.10.11
- ・第4回 2023.12.1
- ・第5回 2024.2.6

SOGI支援WG

- ・第1回 2023.7.4

(女性)職員改革WG

- ・第1回 2023.10.24

学長と外国人教員 (International Faculty Member) との懇談会

第7回となる学長との懇談会は、日本語を母語とされない教員の皆様からのご要望にお応えし、「学長と外国人教員 (International Faculty Member) との懇談会」として2024年1月24日、英語にて開催しました。当日は、多くの学部・所属機関から24名が参加されました。

冒頭、富岡センター長より「新ブランドデザイン達成に向けてのセンターの取組み」についての報告、鈴木学長より挨拶がありました。続いて学部や所属機関を越えた3グループに分かれて活発な意見交換を行い、学長が各テーブルを回りながら声をかけ、懇談が行われました。

参加者からは、①多様性のある教職員の雇用、②インクルーシブな大学ガバナンス (外国人教員や学生の意見を反映できる仕組みづくり)、③学生への研究・キャリア支援 (学部生が国際学会に参加する際の費用補助、海外大学院への進学支援など)、④留学生と日本人学生の交流の促進、等の貴重な意見がありました。学長はそれらに対し、大学の現状の説

明やすぐに取り組みそうな案を提示したり、改善のために参加者の協力も必要になることを語られました。懇談会后、参加者からは「参加できてよかった」「もう少しオープンに互いの意見を言い合えるディスカッションであつたらよいのでは」「大学が教職員や留学生の多様な課題に、さらに力を入れていく決意を感じ、心強く感じた」等の声が寄せられ、懇談会の継続を望まれました。



大学院生サロン

今年度は、春学期と秋学期に1回ずつ「大学院生サロン」を開催しました。昨年度は、「女子院生サロン」として開催しましたが、今年度からは、男女の枠を取り除いて実施し、留学生・日本人学生、理系・文系の垣根を越え、春学期には11名、秋学期には16名の院生が参加しました。

春学期は「コロナ後の院生生活について」をテーマにディスカッションを行いました。コロナ禍で友人を作る機会に恵まらなかったため、今後人脈を広げるにはどうしたらよいかといった話題から、英語での授業・研究の進め方、就職支援の話題まで、様々な悩みを共有しました。参加者からは、「文化的背景など、経験が違う人の話を聞くことができるとても興味深かった」「充実したディスカッションをすることができ、本当に楽しいサロンだった」「定期的にこういった場がほしい」などの声が寄せられました。

秋学期は「横のつながりをつくろう」をテーマに交流を図りました。参加者からは、国際学会の情報

が得られず、同じ研究分野の研究者と交流するチャンス逃しているといった意見や、理系では女性が少なく寂しい思いをしている等の意見が寄せられました。そのような意見に対し、横のつながりを増やすための大学院生ウェブサイトなど、交流できるグループを構築してはどうかなどの提案が出されました。

当センターでは、今後も継続的に大学院生の交流をはかるべく、大学院生サロンを実施していく予定です。



多文化共生社会を考える

2023年10月13日、体奏家・ダンスアーティストの新井英夫氏をお招きし、当センター主催のセミナー「多文化共生社会を考える」がオンラインで開催され、本学教職員および学生、一般の方など学内外から約50名が参加しました。

新井氏は、身体表現を通じて他者理解や多文化共生を進める活動をする中、2022年夏に自身も難病のALS（筋萎縮性側索硬化症）に罹患していることが判明し、それを契機に障害者の社会参画のあり方についてより多くの気づきを得たことを中心にお話してくださいました。その中で、障害者の困難の要因を「その人に障害があること」に求め、克服するのはその人や家族の責任だとする「個人モデル」と、障害がない人を前提につくられた社会の側に「障害（障壁）」があるのであり、それを取り除いて障害者の困難を軽減させるのは社会の責務だとする「社会モデル」を紹介されました。そのうえで、「社会モデル」こそが現代の潮流であり、今後もこの考え方により多くの方が心地よく暮らせる社会を築いていくこと

が重要であるとの考えを述べられました。また、差別や偏見をなくし、多文化共生社会を築いていくには、「〇〇人」や「〇〇者」という“属性”によるつながりではなく、名前のある個人同士のつながりを大切にする必要があるのではないか、とも語られました。セミナーの中では、新井氏の奏でる音楽に合わせて手や上半身を動かすワークも行われ、頭・心・身体のすべてが「ほぐれる」体験もできました。



新授業「ダイバーシティ&インクルージョン入門（仮称）」開講に向けて始動

当センターは2014年度、男女共同参画推進センターとして始まりました。当時、同センターによって開講された授業「ライフイベントとジェンダー」が、3・4年生を対象に現在、共通科目、世界市民科目群において提供されています。2022年度より、同センターはダイバーシティ・インクルージョン(D・I)推進センターとして発展的に拡張いたしました。その際、1・2年生も含めて受講対象とするD・Iに関する授業を併せて開講してはどうかという提案がありました。こうして2023年度、D・I推進センターにWGを設け、新授業開講に向けての準備が開始されました。

WGでは、まず受講者となる学生自身の関心事や問題意識を聴取しようと、1・2年生を対象にアンケートをとることになり、650名を超える学生から回答を得ることができました。その回答にはD・Iについての関心は高いものの、わからないことが多いので基本的なことから学びたいとの意見が多数ありました。

こうした学生の声をもとにWGにおいて検討をし、新授業の目標として、①D・Iの基礎的理解を得られるようにすること、②D・Iを身近な問題と捉えられるようにすること、③D・Iの推進が自分や社会にとってポジティブな効果をもたらすことを理解してもらえるようにすること、という方向性が決まりました。

上記の目標に向かって、新授業、仮称「ダイバーシティ&インクルージョン入門」の2025年度開講を目指して準備を進めてまいります。ご期待ください。



つばさ保育所だより

創立者池田先生・奥様に見守っていただき、創価大学教職員の皆様をはじめ、地域にお住まいの方々に支えられ、つばさ保育所は2023年9月に開所7周年を迎えました。日頃からのご支援に、心より御礼申し上げます。

つばさ保育所の園児たちは、創価大学の緑豊かなキャンパスをお散歩しながら、学生の皆様、留学生、教職員の方々に温かくお声がけいただき、心も体も伸び伸びと育てております。

開所10周年に向けて、皆様に喜んでいただけるつばさ保育所を目指して、職員一同、更に心を尽くしてまいります。

(所長 菊池 静枝)

春

◆ なかよし親子遠足 ◆

～キャンパス内遠足～

春の親子遠足を4年ぶりに行いました。大好きなお父さん・お母さんと一緒に大学のキャンパス内を歩きました。

「恐竜の足ってどこにあるの?」「この木が恐竜なんだよ～!」「紫陽花はここにも咲いているんだね」「エレベーター、よく見えるね～」など、ネイチャービンゴや動物探しゲーム、手作りおもちゃ、カラーバルーンなど、普段からお散歩で楽しんでいる遊びを通して、普段大人目では見過ごしてしまうような小さな発見の連続を、お子さまと楽しんでいただきました。新緑の気持ち良い中、お弁当の味も格別でした。



◆ 0歳から本物に触れる東京富士美術館鑑賞 ◆

『世界遺産 大シルクロード展』

開館40周年を迎えた東京富士美術館にて『世界遺産大シルクロード展』を鑑賞しました。気の遠くなるような紀元前の昔の瑪瑙やトルコ石のビーズを見たり、色鮮やかな敦煌の図屏風を見たり、金峰・銀岳のラクダの剥製と写真を撮ったりしながら、創立者が縁を結んでこられた、日中平和友好に思いを馳せて鑑賞しました。

大好きなキッズルームもリニューアルオープン!お子さまたちは木製の隠れ家にハイハイで入り、小さな窓から「いないいないばあ」していたかと思えば、大きなクッションの上でジャンプをして、「富士美って楽しい～」と瞳をキラキラと輝かせていました。



◆ つばさフェスタ&つばさ作品展 ◆

秋のお楽しみ行事、「つばさフェスタ」を対面で開催するの4年ぶりとなりました。

お子さまたちはかわいいミッキー&ミニーに変身して、「ジャンボリーミッキー♪」のダンスを披露しました。「こちょこちょでんしゃ」や「おやこでビューン」など、親子ふれあい遊びを楽しんだり、絵本劇『どうぞのいす』には保護者の方にも出演していただいたり、終始笑いの絶えない、アットホームなつばさフェスタとなりました。

また、保育所内では「つばさ作品展」を開催しました。春から秋にかけて製作してきた日々の作品を飾るとともに、ディズニーランド&ディズニーシーをイメージして、イツアスモールワールド風のモニュメントやステンドグラスを作り、ファンタジーな世界を表現しました。お父様・お母様に「これ、作ったんだよ」と見てもらえて、とても嬉しそうなお子さまたちでした。



秋

◆ ドリームパーティ ◆

1年がんばったお子さまたちに、サプライズのドリームパーティを企画しました。ビクトリーグラウンドに新品の三輪車とアンパンマンカーを用意。「わ～!やった～!」と歓声があがり、アンパンマンのマントを付けたお子さまたちが、マントをなびかせて走る姿は、とても爽快でした。また、90cmくらい膨らむ大きな風船も用意し、小さなお子さまが大きな風船に乗ったり、追いかけてたりする姿に、1年の成長を感じました。

午睡明けにはミラーボールが煌めく室内を準備。いつもと違う様子に目をパチパチさせたお子さまたちは、大型絵本やリトミック、お菓子のクレーンゲームなどを楽しみ、夢が膨らむ大満喫の1日になりました。



冬

● つばさ保育所利用者様の声 ●

長女と次女が入所しています。創立者の想いが染み渡る自然豊かなキャンパスで、つばさ保育所のお友達と共に、日々成長させて頂いております。保育所のスタッフの方々の献身的なサポートには、毎日感動をしています。また、時には休み時間を過ごしている創大生・短大生のお兄さんお姉さんと、お散歩の際に交流をしているようで、娘たちの成長を多くの方々に暖かく見守って頂き、感謝の想いで一杯です。本当にありがとうございます。(財務部経理課 高田伸一 係長)

女子大学院生フェローシップ制度

本学では、男女共同参画事業の推進および研究力強化のため、大学院博士後期課程に進学する女子学生を対象に、2023年度より「創価大学女子大学院生フェローシップ制度」を創設しました。

当制度では、独立して研究が行える能力の養成に加えて、今後世界市民として直面するであろう諸課題の解決のために専門分野を越えて行動できる知性と実行力を身に着けた女性研究者の育成を目的とし、研究活動に専念できるよう経済的支援（年間学費相当額を上限として奨学金等の支援）を行います。ただし、他の奨学金制度等の支援制度を受けていない方を対象とします。

募集に関する詳細は、本学ホームページをご覧ください。

新しい「産後パパ育休」等により男性教職員の育休取得率が増加

男性の育休取得の促進を目的として、2022年10月に育児・介護休業法の改正により「産後パパ育休（出生時育児休業）」が創設されました。これにより、全国の民間企業勤務の男性の育休取得率は、2022年に17.1%（厚生労働省「雇用均等基本調査」より）となり、前年より3.14%増加しています。本学においても、男性教職員の2022年度の取得率は35.7%となり、新制度が取得促進につながっているものと思われます。

産後パパ育休は、子どもが出生後、8週間以内の間であれば4週間まで取得（2回に分割取得可）でき、従来の育児休業とは別に取得可能な新しい制度です。また、育児休業も法改正により分割して2回取得が可能になりました。

制度の内容や取得方法について詳しくは人事部まで遠慮なくお問い合わせください。

男女ともに教職員の皆さまが育休等を更に取得しやすくなれるよう、各種制度の周知・理解を今後も推進してまいります。

ワーク・ライフ・バランス相談窓口

ダイバーシティ・インクルージョン推進センターでは、教職員が安心して業務に取り組めるよう、相談窓口を設置しています。仕事と家庭生活の両立、妊娠・出産・育児・介護等のライフイベントに関することなど、お気軽にご相談ください。安心してご相談いただけるよう、プライバシーの保護に万全を期して対応します。

相談を希望される方は、学内ポータルサイトよりお申し込みください。

《お申し込み方法（事前予約制）》

学内ポータルサイト > ツール・リンク集 > 学内サイト > ワーク・ライフ・バランス相談窓口

編集・発行 創価大学ダイバーシティ・インクルージョン推進センター

センター長 富岡比呂子

センター員 今泉幸子／植田由香／大森英未／岡本梢／勝本美智子／木下聖子／

小林孝次／近藤重弘／中村玲子／西山道子／二村文子／御崎由久／

村上信明／森富士子／山田和宏／山崎めぐみ

発行日 2024年2月27日

E-mail sankaku-center@soka.ac.jp ホームページ <https://www.soka.ac.jp/particip/>



QRコードはこちら